

令和2年度 県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財を育成する学校。 ※三高プライド…三高スタンダードを身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心。						
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標		達成状況		
○茨城大学、東京藝術大学など国公立大学に32名、早稲田大学、東京家政大学など私立大学に323名、県立中央看護専門学校など国公立専門学校に11名、県警察事務、ひたちなか市役所など公務員に7名が合格した。今後多様な進路希望を実現させるために、進路指導部を中心に3年間を通して各学年で努力して生徒の自己実現に努めたい。また学校の様子を内外に公開して広報活動の推進を図り、本校への志願者数の増大を図る。 ○「文武両道」を更に推進し、きめ細かな教科指導や進学指導に積極的に取り組むと同時に、部活動加入者を増やし学校を活性化することで、豊かな心と健やかな身体の育成及び自主的・実践的な活動意欲の喚起に努めたい。 ○新教育課程に向けたカリキュラム研究・開発及びカリキュラムマネジメント始動のために校内にワーキンググループを設置し調査研究を行ってきた。今年度は新学習指導要領での新教育課程のモデル作成と、「総合的な探求の時間」の運用を開始し、PDCAサイクルを回しながら教育活動をよりよく改善していく。		・自ら学び、自ら考え、自ら探究する力を育む指導。 ・大学や企業等との連携を進め、広い視野で物事を考える力を育む指導。		・主体的な学習者の育成を目指し、自ら学ぶ姿勢を育む指導に努める。 ・校内研修を充実させ、授業改善の意識を高揚し授業力向上を図る。 ・生徒の進路希望を実現できるカリキュラムの検討を進める。		B		
		・高い志の育成を図り、主体的に自己の進路目標を設定させる指導。 ・生徒が設定した進路目標を実現する指導。		・生徒の学力に応じたきめ細かい進学課外の充実を図ることで、学習意欲を喚起し進路実現に結びつける。 ・進路だよりを定期的に発行し、外部情報や本校の取り組みを丁寧に知らせることにより、進路意識の高揚を図る。 ・インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設けるなど、地域との関わりを深めることにより望ましい職業観・勤労観を育む。				
		・主体的に良識ある行動ができる生徒を育む指導。 ・社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を、全教職員が継続的実施。		・基本的な生活習慣を確立させる。 ・校則・ルールの意義を理解し、主体的に良識ある行動ができる生徒を育成するため、社会人として守るべきルール・マナーについて、全教職員が継続的に自ら教室環境整備等の生活環境の改善を行えるよう、生徒会等との協働、及び他分掌・各学年との協力のもと進める。内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、新任者でも指導しやすい環境を整える。				
		・限られた時間の中で、特別活動や部活動に主体的に取り組ませる指導。 ・特別活動や部活動を充実させ、個性を尊重し互いを高め合う集団づくり。		・文武両道の実現に向け、部活と進学の両立を可能にする環境を構築する。 ・部活動に主体的に取り組む姿勢を育み、各大会での上位入賞を目指す。 ・生徒が特別活動の意義を理解し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。特別活動においてキャリア・パスポートを活用する。				
		・募集・広報活動の推進と充実。 ・学校教育活動への理解と協力促進。		・学校ホームページや学校案内等を活用し、本校の特色、取り組み、成果等最新の学校情報を生徒、保護者、県民に積極的かつ適切に発信し、募集・広報活動を活性化 する。 ・学校説明会、学校公開、体験レッスン等の機会を活用し、中学生、保護者、県民等に向けて、教育活動全般を説明するとともに、特色ある専門学科に特化した情報発信にも努め、専門教育への理解を深めてもらう。 ・教育委員会ホームページの活用や報道機関への記事提供を積極的に行う。 ・学年通信や学級通信などを積極的に発行し、学校生活の状況を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。 ・教員の働き方改革に向け意識改革並びに削減可能な業務の検討等を行い、6・10月において昨年度より平均月超過勤務時間3時間以上の削減を目指す。				
・教職員の働き方改革の推進。								
		具体的目標		具体的方策		評価	総合評価	次年度への主な課題
教科指導		1年については基礎学力の定着をはかり、2、3年は、基礎学力をさらに発展させ、大学入試等自ら定めた目標を実現できる応用力・実践力を身につけさせる。		・家庭学習時間を確保させるために週末課題のほか平常日にも課題を実施する。		B	B	・生徒の実態に応じた学習方法の検討を行う。 ・成績上位層の育成と共に、不振者生徒へのサポートとして課外指導の充実を図る。 ・ICT活用に関する目標を設定する。 ・指導や運営方法の確立に努める。
				・積極的な授業の取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践をすすめる。		B		
				・早期、SHR、昼休み、放課後等の時間を利用して小テスト、課外授業、質問時間の機会を設け、学力の養成を図る。		B		
				・曜日バランスを考慮し、授業時間を確保する。		B		
				・インタラクティブフォーラムやブリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。		B		
自ら目標を立て、目標を達成するために互いに努力し高め合う生徒を育成する。		・英検・家庭技術検定等を実施し、合格者数を伸ばす。		B	B			
		・声楽・ピアノ・管楽器・日本音楽の各公開講座を実施し、生徒の技術向上と、向上心の育成を図る。		B				
		・学習環境の美化に努め、生活しやすいホームルームをつくる。		B				
				B				
				B				
教科	国語	確かな学力の定着を図る。		・小テストを利用し、基礎学力の定着を図る。 ・理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。	B B	B	・新学習指導要領に対応する研究を行う。	
		家庭学習習慣の定着を図る。		・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつけさせる。 ・予習・復習に積極的に取り組ませる。	B B			
		生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。		・課外授業を実施し、生徒の進路実現に向けた学力の向上を図る。 ・授業において「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の機会をより充実させて、主体的に表現できる力を養わせる。	A B			
	地歴公民	生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・副教材、プリント学習による積極的効果的な授業を展開、生徒の主体的な学習を促し学習の習慣化を図る。 ・長期休業中だけでなく、早期や休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。	B B	B	・思考を深めさせる発展学習を工夫して行う。 ・ICT教材の開発を行う。 ・授業におけるICT活用の研究を行う。	
		生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。		・新聞、映像教材、インターネット等を積極的に活用するなど授業の改善と授業力向上に努める。 ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。	B B			
		歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。		・修学旅行の事前学習としては、日本史・地理・現代社会等の授業において沖縄についての学習を行う。	B			
	数学	基礎学力の向上を図る。		・小テスト等を実施して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。	B B	B	・基礎学力を定着させるような効果的な演習を行う。 ・ICTの活用の仕方を考えていく。	
		家庭学習の定着に努める。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	A			
		基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。		・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。	B			
	理科	自然科学に対する興味関心を喚起する。		・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。 ・校内及び校外研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。	B B	B	・コロナ感染症対策をしながらのグループワークには制限があるが、その中でもできることを見いだす。 ・Wi-Fi、BYODの導入を受けて、より効果に学習効果が得られるような、ICT機器の活用の研究を行う。	
		思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業を展開する。		・校内研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。 ・グループワークをとおし、協同の姿勢を育む。 ・探究の流れを意識した実験を行う。	B C B			
		学力の向上に努め、生徒の進路希望実現を図る。		・問題集の活用及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。 ・生徒の進路希望を実現できる教育課程の検討を行う。	B A			
	保健体育	体力の向上(身体能力)を図る。		・基礎体力の増進のために体力テストの結果等を利用することで、主体的に授業に臨ませる。	B	B	・主体的、意欲的に取り組める授業の工夫を行う。 ・感染症予防に対する意識の向上を図る。	
生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。		・副教材を利用し、各種目のルールや特性等の理解を深め、スポーツのあり方を考えさせ、実践する態度を養う。	B					
心身の健康の保持増進を図る。		・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)	B					

			具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
教科	芸術	音楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の多様性についての理解を深める。 自己のイメージをもち、創意工夫して表現しようとする意欲を高め、そのために必要な技能の習得を目指す。 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくこととする態度を養う。	・本校生徒の実態に応じた適切な題材・教材選択を図り、より積極的に取り組もうとする意欲を高め、魅力ある授業実践を目指す。	A	A	・コロナ対応の中での活動方法を見いだす。 ・ICT機器を使用した指導展開を推進する。
				・演奏発表の場や対話的な学びを通じて、互いの演奏や音楽表現に対する考え方について理解尊重し、個性豊かな創意工夫ある表現を目指す。	B		
				・アンサンブル活動の充実などを通じ、音楽活動の喜びを味わい、感性を高め、日々の生活をより豊かなものとする。	A		
		美術	美術を学習する意義と基礎技術向上に努める。	・用具用材に対する意識を持たせることで主体的な態度を養う。	A	A	・コロナ対応の中での活動方法を見いだす。 ・ICT機器を使用した指導展開を推進する。
				・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。	B		
				・ワークシートを活用し、効果的な課題演習を実施する。	A		
				・作品提出の徹底を図る。	A		
				・積極的に展覧会を鑑賞する。	B		
			自発的に創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。	・感性を豊かにするために、美術の分野だけでなく音楽や書道の内容を取り入れて興味を持たせる。	B		
				・作品を大切にすることを養う。	A		
		書道	古典学習の意義と基礎技術向上に努める。	・用具用材に対する意識づけを行う。	A	B	・ICT機器を使用した指導展開を推進する。
				・全体指導及び個別指導においてきめ細かな指導を行う。	A		
				・作品整理ノートを十分に活用する。	A		
				・作品提出の徹底を図る。	A		
				・積極的に展覧会を鑑賞し情操を養う。	C		
			創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。	・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。	B		
				・作品を大切にすることを養う。	A		
	英語	基礎学力の向上定着を図るため、授業力向上を目指す。	基礎学力の向上定着を図るため、授業力向上を目指す。	・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。	B	B	・コロナ禍における授業形態の工夫(ITC機器の活用を含めて)を行う。 ・基礎学力の定着への工夫と模試対策への方策の充実について検討する。 ・働き方改革のための、課外指導及び模試等の精選と検討を行う。
				・学習内容の定着の為に質問の時間を設け、プリント等教材の工夫改善を図る。	B		
			外国語の学習を通じて自国の文化等に対する理解を深める。	・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。	B		
				・ALTの先生の授業等を通じて、習慣の違いを学ぶ。	C		
			自分の考えを積極的に発表しようすることに努める。	・スピーチ・コンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。	C		
		家庭	より高い目標に近づくために努力させる。	・各種検定試験(英検、GTEC)への参加を促し、各学年ごとの達成目標を設け指導する。	B	B	・コロナに対応した実習の方法を見いだす。 ・ICT教育の充実を目指す。
				・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	B		
			家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を精選し、授業に生かす。	B		
				・「一日家事体験」や「ホームプロジェクト」等の実践活動を行う。	A		
			課題解決力向上のためのコミュニケーション力・プレゼンテーション力を育成する。	・実験実習を数多く導入し、まとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。	B		
				・授業や学校行事等の学校生活全般において数多くの体験学習を行う。	C		
			多様な進路希望の実現を図る。	・将来の進路につながる資格取得を行う。	B		
				・家政分野の情報を提供する。	B		
			生徒の安全を確保した実験・実習を実施する。	・施設・用具等の徹底管理を行い、危険物排除に加え衛生面も含めた安全な実習環境を整える。	A		
		情報	情報活用の実践力を身につける。	・ワード、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作を身につける。	A	B	・情報社会の中で主体的に生きていく力を育む。
				・目的に合わせて効果的なソフトを選び、その制作物の発表を通して実践的な活用能力を育てる。	B		
			情報社会の課題を考える。	・インターネットにおける問題となった具体的事例を学び、問題が起きた時の解決方法や、犯罪に巻き込まれないための知識を学ぶ。	B		
				・課題学習を通して、自分の考えや意見をまとめ、各自でプレゼンテーション制作を行い、情報発信者としての必要なスキルを学ぶ。	A		
			情報社会に主体的に参画する態度を育てる。	・情報で暮らしが変わることを前向きに捉え、主体的に取り組む姿勢を育てる。	B		
	教務		校内研修を充実させ、授業力の向上に努める。	・AL型授業をはじめとした校内研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。	B	B	・カセット時間割への円滑な移行を図る上で、特に「授業時間の確保」を意識する。 ・塾や予備校への広報活動に力を入れる。具体的には、管理職任せにせず、部員も広報活動に加わる(まずは一人あたり2校程度から始めてはどうか)。
			各部、各学年及び各教科が効率的に機能するよう全職員の共通理解を図る。	・各学年・部・学科の意見・要望を集約しながら資料を共有し、校務の「みえる化」を図る。	B		
			教育課程を円滑に推進する。	・生徒の進路希望を実現できる教育課程及び日課等の検討を行う。	B		
				・新学習指導要領への対応と教育課程編成の準備を始める。	A		
				・大学入学共通テストに向けた研修会の機会を設け、円滑な対応が行えるようにする。	B		
			広報活動の推進と充実を図る。	・HP等を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信する。	A		
				・学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを保護者や地域住民へ周知する。	B		
	特別活動	生徒が主体となってホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を行う。		・自己や集団の課題を見だし、合意形成や意思決定する場をLHRで設ける。	B	B	・新型コロナ禍における行事の実施方法の検討と工夫を行う。 ・部活動が行いやすい環境の整備。特に日程等の調整検討を積極的に行う。
				・生徒会本部役員や各種委員会が学校行事運営の中心となるよう支援する。	B		
				・クラスマッチを実施し、運動に親しむ態度や集団への帰属意識を育む。	B		
				・芸術鑑賞会や校内文化発表会を実施し、文化や芸術を親しむ姿勢や創造性、表現力を育む。	C		
			部活動を活性化し、学習との両立を目指す。	・特色選抜入試を実施している部活動を中心に、上位大会への進出を目指す。	B		
				・運動部、文化部ともに部活動入部加入率が40%以上になるように生徒への部活動への積極的な参加を促す。	B		
生徒指導			生徒が三高生としてのプライドを持ち、自主的にルールを守れるよう、自己形成を図る。	・部活動の活動方針や内規に記載されている活動時間を守れるよう、練習方法の工夫や効率化を図る。	B	B	
			教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・高校生としての基本的生活習慣、規範意識の育成を授業・HRのみならず、学校の諸活動全体の中で自主的に培える援助を行う。	B		
				・教室環境の整備・改善を協力して行うことにより、落ち着いた環境の中で望ましい人間関係の構築をさせていく。	B		
			保護者や外部関係機関との連携による協力関係を構築し、学校以外の視点を指導に活かす。	・年度始めにおける内規・校則等の周知を図るとともに、指導基準・手順等の見直しを必要に応じて行う。	A		
				・生徒の実態把握(被害調査、アルバイト許可、自転車交通関係、携帯電話使用等)を担当・学年と連携して行い、問題行動の防止に努める。	A		
				・PTA総会や各学年PTA集会等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を行い、大人や社会の視点からの指導を行う協力を呼びかける。	B		
				・水戸警察署との連携により、生徒の何気ない身なり・行動でも不審者等の誘因になっていることを知らせ、自己の行動を改めるきっかけにさせる。	A		

	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
進路指導	生徒の進路希望の実現を図る。	・生徒の進路希望に応じ習熟度別・分野別課外を実施し、生徒の学習意欲を引き出す。	B	B	・生徒の進路希望に応じ、タイムリーなアドバイスや情報を提供する。 ・様々な選抜方法に対応するための指導方法や情報の共有を行い、教員の共通理解を醸成する。 ・コロナ禍でのインターンシップ・社会体験の在り方を検討する。 ・効果的な課外設定の工夫を行う。
		・進路相談の充実を図る。	B		
		・学年、教科との緊密な連携により、生徒の進路希望にあった推薦入試対策や小論文指導などを検討、調整、実施する。	B		
	生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。	B		
		・インターンシップ(看護師体験など)や様々な社会体験を促し、進路に対する意識を高める。	C		
		・生徒面談等で分析ソフトやインターネット等を積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。	B		
	実態に応じた適切な進路情報を保護者に提供する。	・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	B		
		・進路だよりを通して、進路等における情報等を保護者に提供する。	B		
		・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。	B		
	高大接続改革への対策を検討する。	・英語の外部試験への対応策の検討やe-ポートフォリオの活用を進める。	B		
保健厚生	保健管理指導を徹底し、健やかな心身と生きる力を育成する。	・けがの防止に努め、安全を最優先して生活できるように配慮する。	B	B	「Withコロナ」における日常や行事への対応・実施方法の検討を行う。
		・各種講話、「ほけんだより」等による健康管理予防の啓発に努め、自分の体調について自己管理させる。	B		
	環境整備に努め、また、防火管理を徹底する。	・校内美化に努め、清掃活動の一層の徹底を図る。	B		
		・火災、震災、及びその他の災害への対策を、外部機関とも連携して講じていく。	B		
	教育相談を有効に活用し、学校不適応生徒に適切に対応する。 進路希望が実現できるように奨学金等で支援する。	・スクールカウンセラーや学年・保護者との連携をコーディネートし、生徒の心的問題の解消を支援していく。 ・様々な奨学金について周知し、必要な生徒に有効利用してもらう。	B B		
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・新着図書案内を定期的に発行し、本の利用を促進する。	A	B	・コロナ禍での安全な図書館利用法を工夫する。それに伴い、開館時間の見直しをする。そのため、朝学習・居残り学習の必要性について関係諸機関と連携を取る。 ・放送講習会の参加に代わり、他の研修方法を工夫する。
		・小論文推薦図書の資料を職員・生徒に配付し、小論文コーナーの本の利用を促進する。	A		
		・蔵書点検を行い、蔵書・各種資料の整理に努める。	B		
		・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書の内容の充実を図る。	A		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。	A		
		・朝自習・居残り学習のために開館し、生徒に継続的な学習の習慣を身につけさせる。	A		
	図書委員会の活性化を図る。 放送委員会の活性化を図る。	・カウンター当番・図書館便り・校外の研修会等に積極的に参加させる。 ・全校行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。 ・放送講習会等に積極的に参加させる。	B B C		
情報	校内LANの安全性を高めて、利用の促進を図る。	・セキュリティ対策を行い安全性を高める。	B	B	・ICT教育機器やソフトウェアの使用方法に関する各種校内研修を計画・実施する。 ・GIGAスクール構想に対応する情報環境の整備を行う。 ・HP更新手続きの確認を行い、充実した情報発信に努める。
		・共有している情報機器や電子データの維持管理を行う。	B		
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・生徒の個人情報漏洩等の事故防止を図る。	B		
	広報活動に協力する。 迅速・正確な成績処理に努める。	・ウェブページ(ホームページ)を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果等を積極的に情報発信する。 ・統合型校務支援システムの完成を目指し、生徒の進路実現の一助となる成績データ等の提供を行う。	B A		
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。	B	B	・コロナ禍における運営の在り方について検討する。
		・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	B		
	保護者や地域との緊密な連携を図る。	・PTA各種委員会の活性化を図る。	B		
		・保護者や地域の意見要望を検討し、広報誌などを通してその対応を図るとともに、理解、協力を得られるように努める。	B		

	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題	
音楽科	音楽に関する専門的で多様な内容についての理解を深め、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。	・卒業演奏会やボランティア演奏、各種コンクールへの積極的な参加など、様々な演奏披露の場を通じて、知識及び技能の習得と音楽文化を発展に寄与する態度を養う。	A	A	・様々な方法で音楽科生徒の活躍の姿をこれまで以上に積極的に発信し、志願者増を目指す。	
		・定期的に公開レッスンを実施し、意欲を高め、資質能力の向上を目指す。	A			
	将来音楽の様々な場面で活躍できる人材を育成するため、特色ある教育活動を展開し、志望する進路実現と安定した生徒募集を目指す。	・オペラ鑑賞会など鑑賞する機会を積極的に設け、音楽的な見方考え方を働かせ、より主体的に教育活動に取り組もうとする意欲を養う。	B			
		・HPを活用し、学校説明会、体験レッスンを通じて、音楽科の生徒の活躍の様子を知ってもらい、安定した志願者の確保につなげる。	A			
		・他学科や学年との積極的な連携を図り、生徒の希望に対応したきめ細かい進路指導を行う。	B			
家政科	生徒の技術向上のため、資格取得の充実に努めるとともに、専門性の高い授業展開に努める。	・全国高等学校家庭科技術検定の三冠王及び四冠王を目標とし、1級の資格を取得させる。	B	B	・コロナに対応した実習の方法及び体験学習の在り方を模索する。 ・ICT教育の充実を目指す。	
		・各分野の専門家による出張授業を実施する。	B			
	活躍の場を広げるために様々な活動への積極的な参加を図り、主体的な実践力育成に努める。	・生徒の企画・運営によるファッションショーを実施する。	A			
		・課題研究発表会や高等学校産業教育生徒交流会において日頃の成果を発表する。	B			
		・各種コンクール(被服関係・食物関係)への参加を促す。	B			
		・家庭クラブにおいて訪問活動やものづくり活動、さらに県連行事への参加を継続し活動の充実を図る。	B			
		・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流活動の充実を図る。	C			
	進路指導の充実に努める。	・家政分野のリーダー育成となり得る進路指導を計画的に実施する。	B			
		・HPでの広報活動等により家政科周知を行い、関心の高い人材確保を図る。	A			
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、言葉遣いを身につけさせる。	B	B	・自主的・主体的に行動するための目標を持たせる。(具体的な進路目標とその実現のための行動目標を持たせる。) ・自己責任能力の育成を図る。(中軸学年として、自己や他者に対する想像力を働かせる指導) ・学習習慣の自立化を図るとともに、主体的な学びのための授業作りを展開する。	
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	A			
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	B			
		・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B			
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B			
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、後悔しない文理選択および進路選択ができるように指導する。	・授業に対して主体的に取り組ませる。	B			
		・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させると共に、保護者に対しても情報発信して理解を求める。	B			
		・生徒との面談や保護者との面談を通して、適切な進路助言を行う。	B			
特別活動への積極的な参加を促す。	・進路ガイダンスや進路講演会を実施し、積極的にオープンキャンパスや模擬授業等を体験させる。	B				
	・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	B				
	2学年	集団の一員としての自覚を持たせ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、TPOに応じた言葉遣いや行動ができるよう生徒の自覚を高める。	C	B	・授業の朝・帰り、前後、廊下等での挨拶を励行する。 ・進路目標を明確に持たせ、安易な妥協をさせず、目標達成に向けての努力をさせる。また、効果的な支援のため、こまめな面接指導や進路研究、教材研究を行う。
			・生活面での、中だるみを防止する指導に努める。	B		
学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につけさせる。		・集団行動を着実にできるように、時間厳守の指導に努める。	A			
		・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B			
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B			
自己の可能性を最大限に生かす進路選択ができるように指導する。		・授業に対して主体的に取り組ませる。	B			
	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させ、新テストに向けての対策を図る。	B				
	・大学模擬授業や進路ガイダンス等を通して、進路意識を高める指導をする。	B				
特別活動への積極的な参加を促す。	・各種講習会や公開講座等に積極的に参加させ、進路実現のために資格取得等にも挑戦させる。	B				
	・部活動や学校行事の中心的存在として活動する。	B				
	3学年	社会に出てからも通用する言葉遣いや行動・身だしなみなどの自己管理能力を身につけさせる。	・部活動や挨拶や言葉遣い、さらには身だしなみを身につけさせる。	B	B	・生徒の主体性を育て、授業や特別活動を展開する。 ・「指示待ち生徒」をどれだけ減らせるかが今後の課題である。 ・今年度はイレギュラーな年度であったが、進路関係の指導で共通理解と相互協力が大切になるので、日頃からのコミュニケーションを密にする。
			・社会生活におけるマナーの大切さを理解させ実践させる。	B		
・遅刻の防止や時間厳守を徹底させる。			B			
授業を第一とする学習姿勢と家庭学習の習慣化を確立させる。		・教材や指導法を工夫し、授業を大切にする姿勢をさらに強く持たせる。	B			
		・生徒一人一人が、各自の課題を自覚して自主学習するようにさせる。	B			
		・予習・授業・復習・分からないところの質問という学習サイクルを身に付けさせる。	B			
3年間の集大成としての進路実現を、一人一人に達成させる。		・面談の機会を多くし、一人一人の状況を確実に把握し、情報提供する。	B			
		・早朝・放課後・長期休業・休日等の課外授業を充実させる。	B			
	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	B				
特別活動への積極的な参加を促し、人間的な成長を図る。	・これまでの経験を生かして、リーダー・模範として活動する。	B				